

【今週の注目疾患】

《麻しん (はしか) 》

2026年第15週に県内医療機関から3例の届出があり、本年の県内の累計届出数は23例となった。同時期との比較において、2017年以降で最多となっている(図1)。

全国では、第14週に東京都で22例、栃木県、埼玉県、千葉県、福岡県及び鹿児島県で各2例、神奈川県及び沖縄県で各1例の計34例の届出があり、累計で236例となった(図2)<sup>1)</sup>。

国内外で届出数が増加しており<sup>1-3)</sup>、今後も更なる増加の恐れがあるため、引き続き発生動向に注意が必要である。

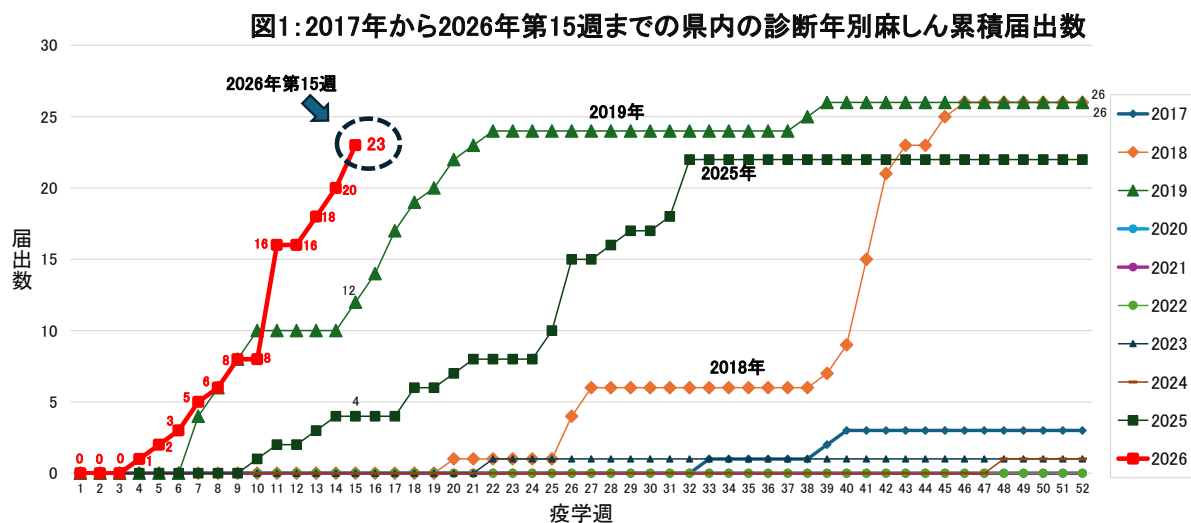


図2: 2019年から2026年までの全国の麻しん累積届出数の推移 (2026年第14週時点)

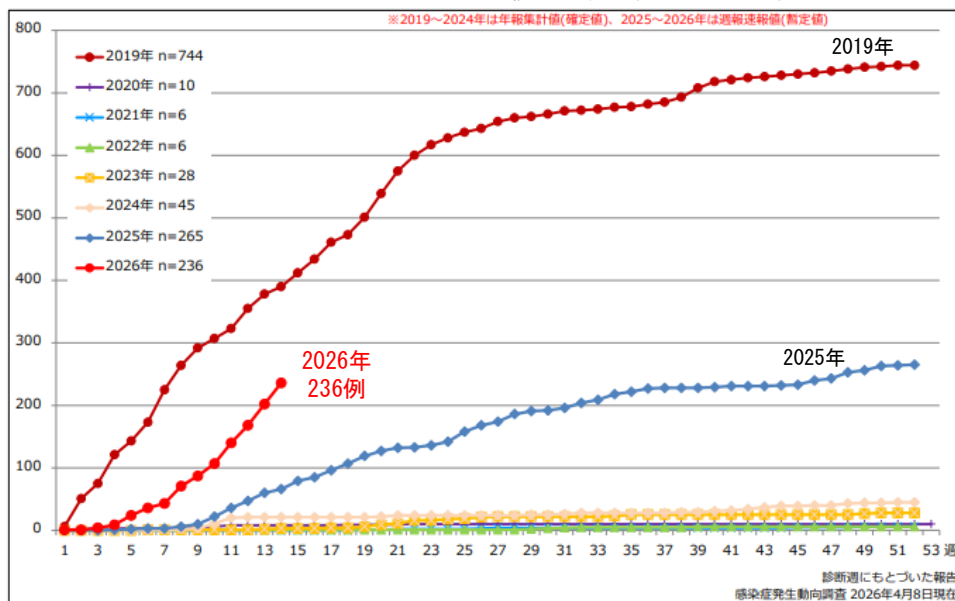


図2は国立健康危機管理研究機構の公表資料<sup>1)</sup>から転載

本年に県内医療機関から届出のあった23例の概要は以下のとおり。

年代は、20代9例（39%）、10代8例（35%）、30代及び40代各3例（各13%）であった。性別は、男性17例（74%）、女性6例（26%）であった。ワクチン接種歴は、なし4例（15%）、1回2例（9%）、2回12例（52%）、不明5例（22%）であった。病型は、麻しん（検査診断例）17例（74%）、修飾麻しん（検査診断例）6例（26%）であった。推定感染地域は、国内13例（57%）、国外4例（17%）、国内又は国外2例（9%）、不明4例（17%）であった。麻しんウイルスの遺伝子型が判明している20例のうち、B3が15例（75%）、D8が5例（25%）であった。

## 県民のみなさまへ

第15週に届出があった2例について、他の人に麻しんを感染させてしまう可能性がある期間（感染可能期間）に、不特定多数の方が利用する公共交通機関や施設等を利用していたことが判明したので、県及び柏市では注意喚起のために報道発表を行いました<sup>4,5)</sup>。同じ時間帯に利用された方は、利用した日から21日以内（特に10日前後）は健康状態にご注意いただき、発熱・せき・鼻水・眼球結膜の充血・発しん等の症状がある場合、事前に保健所に連絡の上、指示に従って医療機関を受診してください。受診の際は、周囲へ感染を広げないように、公共交通機関等の利用を避けてください。

麻しんの定期予防接種をまだ受けていない方は、早めに予防接種を受けましょう。

また、定期接種の対象者だけでなく、麻しんの罹患歴がなく、予防接種歴が明らかでない場合やご自身の免疫が不十分なことが判明した方は、ワクチン接種をご検討ください。

## ■参考・引用

- 1) 国立健康危機管理研究機構：麻疹 発生動向調査  
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/index.html>
- 2) 厚生労働省：麻しんについて  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html)
- 3) 厚生労働省：麻しん及び風しんの定期接種対象者に対する積極的な接種勧奨並びに麻しん及び風しんの任意接種に関する案内等について（依頼）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/001684748.pdf>
- 4) 千葉県健康福祉部健康福祉政策課：麻しん（はしか）患者の発生について（令和8年4月10日）  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2026/260410measles.html>
- 5) 柏市健康医療部保健予防課：麻しん（はしか）患者の発生  
<https://www.city.kashiwa.lg.jp/hokenyobo/kansenyobo/mashin4.html>